

# 生活創造空間

# にし

NISHI

～アンラシネを目指します～

第 27 号 2016 年 3 月 20 日発行



冬から春へ・・・

## 本当にお世話になりました！館長・所長を退任します

生活創造空間にし 館長

地域活動ホーム ガッツ・びーと西 所長

渡辺 幹夫

7年前 こんなことを書きました。

『“生活創造空間にし”は2009年6月1日開所しました”

二つの法人く（社福）県央福祉会 （社福）横浜共生会がそれぞれの施設づくり（就労サポートセンター・地域活動ホーム）を考えながらも、特に力を注いだのは一つの建物としてどのように共同運営していけるかということでした。その2年前からでしょうか、月に2度位の会合をもちながら準備を進めました。その進捗はく県央・共生通信～西横浜に新しい風が立つ～>として発信し、そしてこの建物を「生活創造空間にし」と命名し、この西横浜の地で歩き始めました。それぞれの施設は就労サポートセンター「エヌ・クラブ」地域活動ホーム「ガッツ・びーと西」となり2施設が動き始めています。』

<1+1=2以上になろう！めざそう！>

そして2016年3月。本当にはやく過ぎたという実感。エヌ・クラブの県央福祉会とガッツ・びーと西の横浜共生会が開所前。行政・設計含め、あれこれ話し合ったのがとてもなつかしい感じがします。市内16番目の社福型地域活動ホームを引き受けた共生会と西区の授産所を引き受けた県央。ともにどうすればいいものが作れるかどうか。会議そしてたまに飲み会と。議論・思いを重ねてきました。

こんなふうに。あんなふうに。5階は岩盤浴というのはちょっと驚きでしたが。それも本当に出来るのかどうか。真面目に協議し。そして見送となりました。1階の事務所はどうするか。初めて来た人が気持ちいい場。をどうすれば出来るか。ピアノはおきたい。いやストーブは置くべき。中にはクラシックカーを置いたらと。あれこれ云いあいながら形ができていきました。トイレは27か所設置等・・・。

そしてどこまでプラン通り進んできたでしょうか。判断は皆様に・・・。

お世話になった方々そして機関を思い浮かべてみると・・・。

町内会を代表として地域の方々には厳しい・温かい応援も含め本当にお世話になりました。二つの施設だけで仲はよくても地域に開かれていなければ意味がありません。我々にやってほしいことはありませんかと投げかけたところ。「それじゃ公園の清掃をやってもらえるとありがたい」と云っていただいた。その会長の一言が日常的な地域プログラムのはじまりでした。ガッツ・びーと西にとっても大きな一歩となりました。民生委員の方々・そして関係諸機関とも「顔が見える関係」から「地域福祉の創造」に向けて具体的に歩めている一つの区域になってきているのでないでしょうか。これからの「西」が本当に楽しみです。様々な人達にとって本当に暮らしやすい・生きやすい西になることを。そしてこれからも「生活創造空間にし」をよろしく願います。

個人的には。もう少し「西区」で仕事をします。もしも逢うことがありましたら。気持ちだけは新しい「渡辺」になっていますので。再びのおつきあいを！！

# 障がい当事者の思い・言葉を聞こう4・5

就労サポートセンター エヌ・クラブ 市井 美沙

少しずつ気温が暖かくなってきて、春らしくなってきました。今年度もそろそろ終わりを迎え、生活創造空間にし研修も全5回を終えました。

今年度の生活創造空間にし研修は、障がい当事者の思い・言葉を聞こうをテーマにお話を伺ってきました。きっかけは、昨年度の最後の研修で障がいのあるご本人の声が印象強く残り、渡辺館長含む研修企画者の「障がいあるご本人の発言」を特集してみようという思いからはじまりました。

1月23日の第4回は西区生活支援ネットワークのメンバーでお母さんの立場からのお話、3月12日の第5回はご本人、ご家族、支援者というさまざまな立場の方々とシンポジウムという形でお話をさせていただきました。第4回、第5回の内容をご紹介しつつ、生活創造空間にし研修について振り返って行きたいと思います。

## 第4回の研修。

重症心身障がいのお子さんとのことで、中には医療的なケアが必要な方もいて、『大変』、『つきっきり』というお話を思い浮かべてしまっている私がいきました。

しかし、お話しが始まると笑顔が多く、楽しそうにお子さんの話をするお母さんたち。お子さんの好きなお話、お子さんとの楽しかったエピソード、たまにはちょっと困ったエピソードを交えながらお話し、自分の復職までの過程や、ご家族や地域の方たちとの今の過ごしを楽しそうにお話されていました。お母さんたちの前向きで積極的な姿勢に、私たちの方が知らないことが多いのではと、もっと学びが必要だと感じました。

お母さんたちのお話を受け、研修参加者からも、

「障がいの理解や偏見をなくしていくことは社会の問題。

福祉の人だけが問題を捉えるのではなく、どんな人も考えていかななくてはいけない。」

「地域との関わりは日常の生活の中（小さな、身近なこと）にあることに気づいた。」

「障がいのある方たちが『地域で暮らす』ということを難しく考えていた。

ただ“あなたと仲良くしたい”、“知りたい”と思うことから始めればいいのだと感じた。」といったような感想が多く、支援者としてはもちろん、地域の一人、社会の一人として、もっと地域や人との関わりを大切にしなければいけないと改めて考えさせられた良い研修でした。



そして、第5回目の研修では、当事者2名、ご家族1名、支援者2名の計5名のシンポジストの方々にインタビュー形式で色々な質問をさせていただきました。

当事者の方には、今までの経過や経歴、今の暮らしで満足していることや不満なこと、ご家族の方には、行政や支援機関、同じ親御さんに対する思いや課題を、支援者にはそれぞれの立場での活動について、質問させていただき、そして最後には、みなさんに夢を大いに語っていただきました。

残念ながら研修参加者は少なかったのですが、その分近い距離でお話をお聞きすることができ、生の声が直接心に響いたのではないのでしょうか。

また、今回は、当事者の方も数名お話を聞いてくださっていて、また一味違う研修でした。参加者からのアンケートにも、シンポジストの方のお話の中にもこの研修をもっと色々な人に聞いてほしい、知ってほしいという思いが強く感じられました。（私ももちろんそう思っています！！）こういった意見を次年度につなげていけたらと思う今年度最後の研修でした。



来年度のテーマは、『**地域で育ち合う・暮らし合う・生き合う**』です。

このテーマのもとに差別解消法、合理的配慮等のちょっと難しい法律などの内容から、今回のように当事者の方のお話を伺ったりと、今年も学びの多い研修にしたいと思います！！当事者の方や地域の方などの参加もお待ちしています。奮ってご参加ください。





# アズルルさんマレーシアに帰る



広報26号でご紹介したマレーシアから研修に来られていたアズルルさんが、日本時間の2016年3月12日(土)帰国の途につかれました。今回はアズルルさんからのメッセージを掲載します。

私は初めて日本へ来ることが出来て、夢の様な幸せな気持ちでいっぱいです。

「日出る国」に自分が足を踏み入れる機会が巡ってくるとは夢にも思いませんでした。日本は街が綺麗で安全で、とても美しい国で、国民の方たちはみな親切で謙虚です。県央福祉会の職員みなさんは私の友だちです。

私にとっても皆さんにとっても今回の研修は初めてのことでした。研修が終わっても私たちの友情は途切れません。いつか、皆さんに祖国(マレーシア)に来てほしい、そしてマレーシアの文化と生活を知ってもらいたいのです。日本の方はマレーシアと全く異なった文化的な暮らし方をしていると思いました。日本に住み続けて皆さんと一緒に仕事を続けられたら…と願ってやみませんでした。しかし、帰国しなければなりません。滞在中の素晴らしい思い出、皆さんと一緒に撮った写真の一枚一枚が一生の私の宝物であり、色褪せることのない思い出です。

皆さん、私を受け入れてくれてありがとうございました。親切なみなさんのことを私は絶対に忘れません。私たちはずっと友だちです。遠く離れてもまたお互いに何かと力になることもあるでしょう。日本での半年の暮らしは幸せでしたが、悲しいことに皆さんとは「お別れ」をしなければなりません。…最後に、本当にありがとうございました。

## 腹黒日記～黒々なるままに～

### ☆終活☆

春は出会いと別れの季節だ(以前にもこういうすべり出しをした思い出がある…)。別れがあるからまた、幸せな出会いがある。すっかり春めいてきて、読者の皆様もかゆい目をこすりながら、稚拙な私の文章にお付き合いいただいていることだろう。

この腹黒日記も平成21年の創刊号以来、6年以上のお付き合いとなる。そろそろ腹黒日記も終活を考えていかなければならない。得てしてギャグ漫画は短命だ(腹黒日記はギャグ漫画か?)。かの有名なドラゴンボールも当初はギャグ漫画路線だったがバトル路線に変更し、レジェンドになったことは有名な話だ。腹黒日記もバトル路線へ移行しますよという話ではない…。

読者の皆様には、腹黒日記終了後の巻末、編集後記はどのような作品がよいか、一緒に検討していただきたい。今、勝手に考えている候補作としては、「チャンピオンの新婚束縛日記」、「私がオジさんになっても」や「九官鳥の、安心してください 延長日記」などもよい。巻末だけに、釜石・大槌自立支援協議会の皆さんと姉妹(しまい)自立支援協議会リレーコラムなど、できたら素晴らしい。おあとがよろしいようで。(腹ぐろーる)



生活創造空間にし URL : <http://www.souzoukuukannishi.org>

【発行・印刷】生活 創造 空間 にし広報委員会 〒220-0055 横浜市西区浜松町 14-40

☎ 045-250-6506 (ガッツ・ビーと西) ☎ 045-250-6470 (エヌ・クラブ)